杉並から　始動 岸本区政③政治の役割

新自由主義と対抗 公共を再生

杉並から

始動 岸本区政

③ 政治の役割

5月に杉並区内の子ども食堂を訪れた岸本氏㊨=住民思いの杉並区長をつくる会提供

岸本聡子・東京都杉並区長へのインタビュー（東京新聞 8 月 14 日朝刊）を紹介する。記事中の写真は、5 月に杉並区内の子ども食堂を訪れた岸本氏㊨=住民思いの杉並区長をつくる会提供。

杉並区長選で地域の皆さんに伝えたのは、経済危機や新型コロナウイルス、気候変動などの世界的な問題は、身近な課題とつながっているということ。「世界中の人が同じような生きづらさを抱えているんだ」と感じ、（課題の解決に向けた）勇気を持ってもらえたようです。欧州の非政府組織(NGO)で、各国の公共サービス民営化の実態を調査してきた私の、いわば唯一の強みだと思います。

今、国内外で起きている多くの問題は、新自由主義的な緊縮財政に端を発しています。公的な仕事の非正規化が進んだ結果、若年層を中心に不安定な雇用が広がっています。エネルギー危機は、発電や供給、販売などのプロセスを民間に売ってきた結果です。欧州では公営住宅の売却が進む中で土地バブルが起き、住宅費が高騰しました。政府が後から価格を調整しようにも、公のコントロールが及ばなくなっているのです。

政治は、新自由主義に苦しむ人の十分な受け皿になってきませんでした。お金や権力を持つ人が中心の「エリート政治」になり、生活者の視点と政治が乖離したことも原因です。労働組合の声を重視する政党もありますが、非正規労働者は労組にも入れない。結果的に、与野党ともに新自由主義的な政策を推進するという傾向が続いてきました。

こうした政治全般への怒りが、欧州では極右政党への支持に向かっているという現実があります。不安ややるせない思いを受け取ってくれる政党やコミュニティが他にないからです。

極右は常に排他的な主張をしているわけではありません。「福祉は大切だが、他の民族に分け与えるほどの余裕はない」など、人々に強く訴えるメッセージを持っています。最低賃金の引き上げなど、困難にある人のための政策を実現できるか、野党も含めた政治の姿勢が問われています。

大切なのは地域経済を重視し、公的な雇用を安定させること。私はこれを「公共の再生」と呼んでいます。世界的に続いてきた「公共の破壊」からの転換は大変でしょう。ただ、区長選で私の言葉が有権者に届いたのは、多くの人が軌道修正の必要性を感じているからこそ。特に選挙を通じて出会った医療、保育、介護関係者からは、強い危機感が伝わってきました。

困難にある人の声を聴く努力については、妥協するつもりはありません。自分が当事者ではない問題に関しても、むしろ当事者でないからこそ謙虚に学び、聞き、理解したい。政治家に求められる、一番大切な能力だと思うからです。

（2022 年 9 月 25 日）